

平成 25 年度国際協力報告会（関西地区）

平成 26 年 2 月 28 日（金）に大阪マルビルの大阪第一ホテル 6 階マークスの間で国際協力報告会（関西地区）を開催し、国際ボランティア貯金の寄附金配分を受けた関西地区の NGO 及び関西 NGO 協議会のメンバー及び関係者、合計 50 名の方々にお集まりいただきました。

東京からは独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構の貯金部財務課長下城孝一郎氏にご出席いただき、過去の国際ボランティア貯金の配分状況と平成 25 年度の審査状況、また今後の残り少ない国際ボランティア貯金の寄附金等についてご説明をいただきました。



NGO の報告は、「公益社団法人アジア協会アジア友の会」の副事務局長 熱田典子氏から、国際ボランティア貯金の寄附金を受けて実施した国際協力活動を「バイオガスプラント設置と児童環境教育を通してのネパール農村改善支援活動」と題してご講演をいただきました。

「アジア協会アジア友の会」は専務理事兼事務局長の村上公彦氏が 20 代の頃、安全な水の大切さを実感させられる体験から、1970 年に団体の前身である「エポスクラブ」を設立しました。

その後、西ベンガル地震の被災者が「安全な水」に困窮する姿を見て「水」の大切さを再認識し、1979 年にアジア協会アジア友の会を発足しました。

現在、アジア 18 か国に 64 か所の現地提携団体とのネットワークを形成して、それぞれの地域と実情に沿った、現地住民を主体としたプロジェクトを支援しています。



平成 4 年度から平成 22 年度まで国際ボランティア貯金の寄附金を 18 回配分され、インドでは飲料水確保のための井戸掘削用機材の供与や井戸及び仮設住宅の設置、自動車整備等の職業訓練を、カンボジアでは井戸掘りや貯水池の設置と小学校・図書室の整備を、インドネシアでは灌漑施設の設置等を、ネパールでは病院の分娩室・新生児室等の建設・運営、保健衛生指導、栄養改善指導、バイオガスプラントの設置など、さまざまな支援活動を実施してきました。

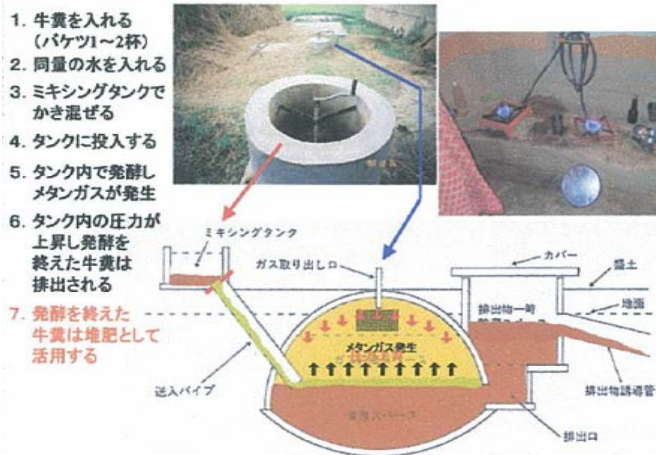
ゆうちょ財団の平成 25 年度 NGO 海外援助活動助成事業の助成金では、ネパールのバグワティ県バクタプール郡とカブレパランチョーク郡でバイオガスプラントの設置と使用方法指導及び子ども達への環境教育を行っています。

ネパールは、人口 2,649 万人、93.7%が農林水産業に従事し、その 76%が農業を行っており、生活のための農作物を作っています。主な作物は米、小麦、トウモロコシ、ジャガイモ、ジャムンゴロ等です。

現地では家事に薪を使用するため年間の森林減少が著しく、その薪を遠方まで拾いに行き運ぶのは女性の仕事となっています。

バイオガスプラントの設置により女性を薪集めの重労働から解放して、1 世帯あたり 1 日 10-20kg の薪を節約し、薪などからの煙による眼や呼吸器系の疾患を防ぐことができます。

バイオガスの構造



過去の国際ボランティア貯金の寄附金配分では963基、当財団の助成金では10基を設置しましたが、建設資材はすべて現地で調達し、ガスの燃料である牛糞は家畜から使用して発酵を終えた牛糞は肥料として利用しています。

そして、ネパールの将来を担う子どもたちに対し環境セミナーを開催して、自然エネルギーの太陽光の力についての授業や植林活動も実施。その他にも、学校・地域清掃やごみ分別など環境保全の大切さを教えています。

現地の人々が主体性を持って実施することに重きを置き、自立した循環型農村の形成と自立した農村地域づくりを目指しています。

報告会後の意見交換会にも大勢の方々にご参加いただき、NGO間で活動内容の情報交換が活発に行われました。